月刊 同友
11月号
2025
vol.712

P03-05
特集　女性に輝き続ける人生を
～理念の実践が生む、未来への挑戦～

P10-12
2025年度 情勢勉強会
不透明・不確実の時代を克ち抜く
全社一丸の経営戦略

P06-08 21世紀型自立型企業づくり

木の輪、人の笑、幸せの和

～『おもい』を成文化することの効能～

株式会社 九州バイオテック
代表取締役　有働 隆司 氏（大牟田支部）

福岡県中小企業同友会
広報情報部
Facebook

MONTHLY COMMUNICATION MAGAZINE DOYU

同友会 3つの目的

よい会社をつくろう

同友会は、ひろく会員の経験と知識を交流して、企業の自主的近代化と強じんな経営体質をつくることをめざします。

よい経営者になろう

同友会は、中小企業家が自主的な努力によって、相互に資質を高め、知識を吸収し、これからの経営者に要求される総合的な能力を身につけることをめざします。

よい経営環境をつくろう

同友会は、他の中小企業団体とも提携して、中小企業をとりまく社会・経済・政治的な環境を改善し、中小企業の経営を守り安定させ、日本経済の自主的・平和的な繁栄をめざします。

今月の表紙

株式会社 九州バイオテック

代表取締役 **有働（うどう） 隆司（たかし）** 氏（大牟田支部）

私が有働 隆司さんをご紹介します！

㈲岡村商店
代表取締役 **岡村 孝司**
（大牟田支部）

有働さんは2023年9月に入会されて、私が当時副支部長として担当だったブロックに配属されました。そこで直ぐに副ブロック長を受けて頂き、例会やブロック会など率先して参加してくれて、ものすごく勉強熱心でいつでもメモを欠かさず、それでいて活発な意見を言える行動力のある人だなと感じました。

また、2024年は経営指針書も作られて経営理念をつくり会社や経営環境を良くし、地域のお役立ち企業になるための実践の最中です。今期に関しても指針ブロック長を引き受けて頂き、支部と会員さんのために日々頑張っている姿を見ると私自身背筋を伸ばされる思いです。

有働さんはとても家族思いの方で、7月例会の夏祭り総踊りにもお子さまを連れてきてくれて、家族のふれあいを常に大事にされているなと感じ子どもたちの楽しそうな笑顔が印象的でした。

そんな有働さんとこれからも同じ経営者として共に学び合い、切磋琢磨しながら楽しくやっていきたいです。

現場からひとこと

インタビュー当日に通された社長室には行政などからの表彰状がずらり。これまで大牟田の地で長く事業展開してきた実績と歴史を窺えました。インタビュアーの林田広報情報委員とも経営指針作成セミナーに参加された者同士、和気あいあいと話されました。有働さんは、支部例会に社員と一緒に参加されたこともあり、会員経営者だけでなく社員と共に学ぶよろこびを分かち合うことを実践されています。有働さんが謙虚に学ばれているご様子を伺い、私自身も事務局理念「中小企業家と共に生きる」を実践すべく、襟を正される想いになりました。

撮影・文／同友会事務局　安丸 雄介

詳しくは7ページ「21世紀型自立型企業づくり」へ！

JOZENKO in Tokyo

第28回女性経営者全国交流会 in 東京 第9分科会の紹介

女性に輝き続ける人生を

～理念の実践が生む、未来への挑戦～

報告者
スタイルクリエイト株式会社
代表取締役
麻生 有花氏

9月4日に開催された女性経営者全国交流会（女全交）第9分科会では、スタイルクリエイト株式会社代表取締役の麻生有花氏（福友愛支部）が、「女性に輝き続ける人生を～理念の実践が生む、未来への挑戦～」と題して報告されました。ご自身の経験と事業の変遷について、理念を軸にした経営の実践と、その過程で生まれた挑戦と学びの数々を力強く語られました。同友会の会員である私たちにとって、理念経営の奥深さと、社員との信頼関係を築くことの重要性を再認識する、貴重な機会となりました。

企業理念が目指すもの

麻生氏の事業は、彼女が服飾系などの事業をしていた2009年に、ウェディング事業を立ち上げたことが一つの転機となりました。その後参加した就職マッチングイベントで、3人の子育て中の女性と出会いました。その方は広告代理店の営業をされていて、「私バリバリ働けるんです」と語られました。自分の能力を発揮したくてもできないという、自身と同じ境遇にいる人がいたことに共感し、その女性を雇用。彼女から「企業理念を決めましょう」と提案され、互いに「やりたいこと」をとことん出し合った結果、経営理念が決定しました。この理念が、保育業界の課題解決へとつながる原点となったのです。

当時の社会的な潮流も、麻生氏の決断を後押ししました。少子化が進む一方で、共働き世帯は年々増加し、特に都市部では「待機児童問題」が深刻な社会課題となっていました。企業としても、女性や子育て世代の人材確保が大きなテーマとなり、「子育てと就労の両立」を支える仕組みが強く求められていたのです。こうした状況を目の当たりにし、麻生氏の課題意識は、後にスタイルクリエイトの企業理念となる「女性が輝き続けるフィールドを提供する」というパーパスへとつながります。従業員の99％が女性であり、20代から70代まで幅広い世代が活躍しています。彼女は、事業を通して子育て世代や女性が自分らしく働くための企業のロールモデルとなることを目指しています。

企業主導型保育事業からスタート

個人事業主として活動をスタートさせ、働く女性たちが自分らしく輝ける場所を提供したいという強い想いを抱きました。この創業期に、理念を行動に移すことの重要性を実感したと言います。折しも、市役所から勧められたことをきっかけに、内閣府が2016年に企業が主体となって保育園を設置・運営する「企業主導型保育事業」の制度を知ります。これは「待機児童対策」と「労働力確保」を同時に狙った政策であり、麻生氏の想いを後押しする形となりました。2015年9月には、個人事業から法人化し、スタイルクリエイト株式会社を設立。明確な経営理念を掲げ、事業の根幹となる保育園事業「からふる保育園」をスタートさせました。

「からふる保育園」では、一般的な保育園とは一線を画す独自の教育を取り入れています。例えば、日本の檜の廃材を使った「木育」や、プロのアーティストが監修する「エニタイムアーティスト」といった独自の芸術教育を通じて、子どもたち本来の生きる力を育んでいます。また、保育士が外部との交流を通じて視野を広げ、学びを深めるため、園を離れてワーケーションを実施するという、業界では珍しい取り組みも行いました。

環境の変化と自身の変化

事業が順調に拡大し、認可保育園への参入も果たした一方で、麻生氏の経営スタイルに変化が求められる時期を迎えます。それまで二人三脚で歩んできた右腕との別れは、麻生氏にとって大きな痛手でした。しかし、この経験を転機として、理念やビジョンを一方的に伝えるだけでなく、社員と共に学び、共に育っていく「共育」の精神を大切にすることを決意。社員一人ひとりと向き合い、理念を共有することに注力することで、組織の一体感を高めていきました。

事業の拡大に伴い、組織のひずみも顕在化します。特に保育業界は慢性的な人材不足が深刻な課題です。時はコロナ禍。働く保育士も休まざるを得ない状況にありましたが、麻生氏はこれをピンチではなくチャンスと捉えました。オンライン採用説明会や園内のライブ配信をいち早く開始し、新たな採用手法を確立します。また、保育資格者が40％しか稼働していないというデータに着目し、どこでも短時間でも働ける「フリーランス保育士制度」を導入しました。現場からの不安の声に真摯に向き合い、納得してもらうまで何度も話し合いを重ねたと言います。この経験から、麻生氏は「ビジョンと戦略は伝え続けなければ意味がない」ということを改めて感じました。

最大の危機から得た学び

そして2021年、会社は最大の危機に直面します。一部の園長によるパワーハラスメントが発覚し、退職者が続出しました。麻生氏は経営者として謝罪する決断をしました。その時、社員たちは共に涙を流し、会社を守ろうと覚悟を決めてくれました。この危機を乗り越えたことで、会社の絆はより強固なものとなり、フリー保育士制度は福岡県男女共同参画表彰を受賞するなど、社内外から高い評価を得ることにつながります。この経験から、麻生氏は「社員の覚悟が会社を救う」という大きな学びを得たと言います。

最大の危機を乗り越えた麻生氏は、業界が抱える課題に真正面から向き合い、企業理念である「女性に輝き続ける人生を」を追求するための新しい事業を次々と立ち上げていきます。その一つが、福岡県の事業採択を受けて開設した託児付きコワーキングスペース「CREATIVE ROOM」です。この施設は、育児中の女性が安心して働くことができる環境を提供し、地域の女性起業家やフリーランスの支援も行っています。

また、保育士の人材紹介業界では、一人の保育士を短期間に何度も転職させて紹介料を得るような悪質な業者が問題となっていたため、保育士のキャリアを守るため、倫理観に基づいた人材事業を自社で立ち上げました。さらに、経済産業省のリスキリング事業にも採択され、若手からベテランまで、保育士の世代間ギャップを埋める仕組みを構築。保育士のセカンドキャリアとして、保育園以外の活躍の場も創出しています。

参加された福岡会員のみなさんと

座長報告　入江 恵美氏（福友愛支部）

理念が目指す会社の未来

「理念の実践は行動に結びつく」という信念のもと、スタイルクリエイトはこれからも挑戦を続けます。保育士のキャリアの循環を実現するため、関東への進出（M&A）を本格化。東京でも登録制保育士制度をスタートさせ、全国展開を目指しています。また、保育事業とリスキリング事業のバランスをとりながら、女性のためのキャリアスクールや創業支援事業をさらに発展させていく計画です。社員がいつでもナースに相談できる「フレンドリーナース」制度を導入するなど、福利厚生の面からも社員の健康と働きがいをサポートしています。

麻生氏は、「社員が輝き続けることができる企業であり、輝き続けたいと思う人々のために事業を通じてできることを追求していく」と力強く締めくくりました。理念経営は、一朝一夕で成し遂げられるものではなく、社員との信頼関係を築き、失敗や危機を乗り越えながら、地道に実践していくことの積み重ねであることを、麻生さんのご報告から深く学びました。今回の学びを自社の経営に活かし、私たち自身も「輝き続ける」存在でありたいと強く感じます。

木の輪、人の笑、幸せの和

『おもい』を成文化することの効能

2代目社長は経営に行き詰ったとき、同友会に出会いました。

大牟田支部

株式会社 九州バイオテック
代表取締役
有働 隆司 氏

家屋の解体や伐採木、災害から出る木材などあらゆる木材が山のように集まります

取材＝広報部　文＝菅原弘（東支部）　写真＝安丸雄介（事務局）

木に特化したリサイクル業

今回の取材班は、大牟田市の三池港を臨む工業団地にある㈱九州バイオテックの有働隆司さんを訪ねました。広大な敷地に大きなトラックが頻繁に出入りしていました。

「木材の誕生から役割を終えたときまで、木に特化したリサイクル業です」と有働さんは話し始めます。

具体的には、家屋の解体や道路工事に伴う伐採木、家具製造・製材所・プレカット工場から発生する端材、さらには毎年のように起こる自然災害から出る木材、最近では大牟田市から出る一般廃棄物（家庭からでる家具や剪定くず等）もとり扱っています。

それらを工場に集めて、処理加工しチップ化して火力発電燃料にします。グループ内にはバイオマス発電の会社があり、年間に一般家庭約2万4千世帯分にあたる電力をつくり出しています。さらに集めた木材の中には、チップ化だけではもったいない木材も含まれ、選別して精製し中国や東南アジアを中心に輸出しています。

「入口では廃棄物処理費を、出口では販売益をいただいています」。広大な敷地・重機・チップ化する機械など設備投資が必要になります。

会社の創立

1979年、祖父の有働義弘さんが大牟田市に紙のリサイクル会社である㈲有働資源を設立させました。順調に実績を伸ばす中、専務であった父親の憲輔さんが「これからはペーパーレスの時代が来る。そうしたら食っていけなくなるぞ」と危機感を募らせ、リサイクル資源を『木』に枝分かれし㈱九州バイオテックを設立させました。憲輔さんが初代社長に就きます。2010年8月のことです。

有働さんの生い立ち

隆司さんは1985年、有働家の4人兄弟の長男として誕生し、19歳まで大牟田で育ちました。アルバイトをしていた飲食業（イタリアン）に関心を抱き東京に修行に出ます。

「サービス業でお客様に幸せな空間・時間を提供するのがいいなぁと思いました」。

やがて社長が体調を崩し、「戻って来い」コールが出ました。悩む隆司さんは、長男という立場を熟慮し、㈱九州バイオテックを立ち上げるタイミングで、後継者として戻りました。幸い、社長は手術の末、体調を取り戻しました。

広大な敷地をさらに広げ、単一工場として九州一になることを視野に入れています

幼いころから仕事を見ていたものの、改めて現場で仕事を覚えました。社長はたたき上げで、カリスマ性を持ち合わせていました。従業員に多くを語らないまでも「俺の背中を見てついて来い」とばかりのオーラを常に放ち、普段の何気ない会話でも常に夢とロマンを語り、みんなはそれについていきました。「商売は三方よし、従業員を愛しとるか？」が口癖でした。「私も憧れました」と有働さんは振り返ります。

2代目社長の悩み

2022年5月、隆司さんは2代目社長に就任します。その年の8月に先代は急逝します。「先代のマネをしてみても、うまくいきませんでした」。

売り上げはだんだん落ち込みました。事業の拡大を考えるときM&Aをして営業所を出すか、別の資源に手を広げるべきかなど検討したといいます。

そもそも有働さんは『背中で語る』タイプではありません。社員の不満も増えてきていました。「事業の方向性がブレてきている」と感じてきました。

同友会との出会い

そんな悩みを、高校の同級生である橋本諒さん（㈱BIパートナー）と話していると、「お前にピッタリの会がある」と同友会に誘われ、即入会します。

例会などで会員さんと話しているうちに「自分の『おもい』を成文化して伝える」という方法があると知りました。

すぐにあすなろ塾、2泊4日（2泊3日＋1日発表会）の経営指針作成セミナーに参加することにしました。「自社が現在どこにいるのか、そして将来どこへ行くべきなのかがわからず、まずそこを考えたいと思って受講しました」と有働さんは言います（ちなみに、これに加えて「どうやってそこへ行くのかがわからない」というのが、経営迷子の3要素と言われています）。

「初めて自社を見つめ直すとともに、経営者の覚悟ができたセミナーでした」。

経営理念

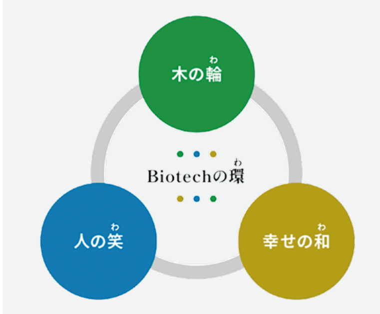
策定した経営理念は次の通りです。

わたしたちは、木の輪、人の笑、幸せの和
『環』を想像し広げ、つないでいく企業です。
～未来の子供たちのために～

木の輪
『木』の持つ可能性を最大限に創造し誕生から役割を終えた時までをつないでいきます

人の笑
『人』の笑顔の懸け橋となる生のお付き合いをする仕事、三方よしの精神の仕事をつないでいきます

幸せの和
『幸せ』になる仕組みを創造し社員、家族、会社、お客様、地域の幸せを追求し続け、つないでいきます



理念の浸透化

有働さんは理念の浸透のために、まず組織体制の強化に努めました。現在、チップ製造部、輸送事業部、輸出事業部の3つの事業部があります。それぞれの責任者と日々理念のすり合わせをしています。ちなみに次男は専務、三男は工場長を務めています。

有働さん自らも、積極的に社員とコミュニケーションを図るようにしました。

ある日、有働さんの手元に

写真が届きました。それは社員たちが、経営理念実現のためにどのようなことができるか、自主的にホワイトボードを使ってSWOT分析をしながら話し合っている様子が写っていました。「うれしくて泣いてしまいました」と有働さんは話します。また社員からも、「こういう機械があると作業がはかどります」「制服を新しくしませんか」などの改善提案が聞かれるようになってきました。

搬入に来場されたお客様のトラックのブルーシートやロープなど取り外しや、荷台の清掃を進んで手伝うようになりました。また、部署間を越え互いに作業のヘルプを行う姿もみられました。

『おもい』を成文化することで、社員に浸透していくことを感じます。

今後の課題

同友会では『経営指針書の更新』も重要であると学びました。現在は社長自ら作成していますが、今後は方針を示して、社員たちとつくり上げる体制にしたいと考えています。

当初は10年ビジョンを描いては見ましたがまだ力不足を実感しています。しかし取材をしていると中期計画として「単一工場として九州一になる」ことが視野に入ってきたといいます。多量の木材を受け入れる敷地、それらを処理、加工する設備、年間15万トンまで延ばすことを目標としています。「日本有数の港・三池港がそばにあり、有明沿岸道路が整備され、産業インフラが整いました。敷地も広げる予定です」。

設備投資が大きな課題ですが、環境負荷、ランニングコストを抑えるためにエンジン式から電気式に切り替え、2050年カーボンニュートラルに備えます。「脱炭素の社会の動きは私たちにとってビジネスチャンスでもあります」と語ります。

地域貢献

熊本地震、九州北部豪雨、大牟田市の大雨による浸水の時は、廃材処理に悲鳴を上げました。「これはいったいいつまで続くんだ」。しかし実際に被災地を訪れた時、そこで住民のみなさんが必死に片づけているのを目の当たりにしました。「この人たちが笑顔になるために、私らも頑張らんといけん！」と心に誓いました。それが少しでも復旧・復興の手助けになると実感しました。

地域貢献といえば、大牟田市には動物園があります。「微力ではありますが動物園サポーター企業になりました」。清掃などをしています。

同友会活動では『インターンシップ』に参加し高校生を受け入れています。「地元にもこんな企業があるんだよ」と伝えます。いまどきの高校生と触れ合うことで刺激を受けています。

自主的に動く

取材の最後に、有働さんの考える自立型企業についてお伺いしました。

「経営理念実現のために、社員一人ひとりが自分で判断して自主的に動き、お客様や仕事に関わる全ての人のために進んでいく企業だと思います」。

父親から引き継いだ企業風土の中で、その人材は育ってきたと感じています。「あとは同友会で学び、社員たちが動きやすい環境をつくるのが私の仕事だと思います」。

父親の口癖「従業員を愛しとるか」が今日も頭の中をめぐっています。

取材協力ありがとうございました。

企業情報

株式会社九州バイオテック

創業 2010年
住所 大牟田市四山町14-5
電話 0944-59-6622
社員数 26名
事業概要 産業廃棄物処分業、木質バイオマスチップ製造業

https://www.protec.ne.jp/

有働さんのAction

「背中で語る」先代とは違う。自分は「おもい」を理念に。事業とのすり合わせを通して社員に浸透させていくことで生まれた変化。

企業変革支援プログラムVer.2 入門勉強会

自社の経営の健康診断しませんか!?

～会社が変わる、社員が変わる、自分が変わる～

同友会が推奨する経営指針書の作成・実践をし「人を生かす経営」に基づいて分析していきます。

Ver2では、6つのカテゴリーで分析していきます。経営者だけでなく、社員にも参加してもらうことで認識のギャップがレーダーチャートにより、鮮明になり認識の共有に役立ち自社の進むべき方向が確認できます。

また全国会員のデータがあるので、同業種における自社の立ち位置を知ることができます。

企業変革支援プログラムVer.2
お求めは同友会事務局まで
頒価2,000円

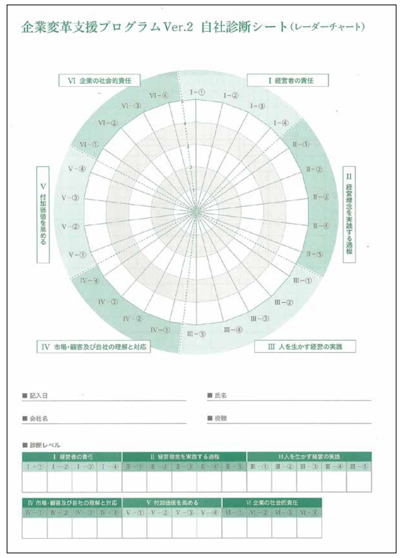
主　催 福岡同友会　福岡地区会
日　時 2025年9月19日㊎18:30～20:00
場　所 福岡県中小企業振興センター301号
内　容 自社の立ち位置を明確にして、社員とともに目指す企業像へ

会場の様子

森地区会長趣旨説明

参加者はPCを持ち込んでの演習

1. e.doyuを開く
2. 左のメニューから企業変革支援PGVer2をクリック
3. 上のタスクバーから自己分析シートを選び各種ダウンロード
4. それぞれを入力する



このようなレーダーチャートに表されます。

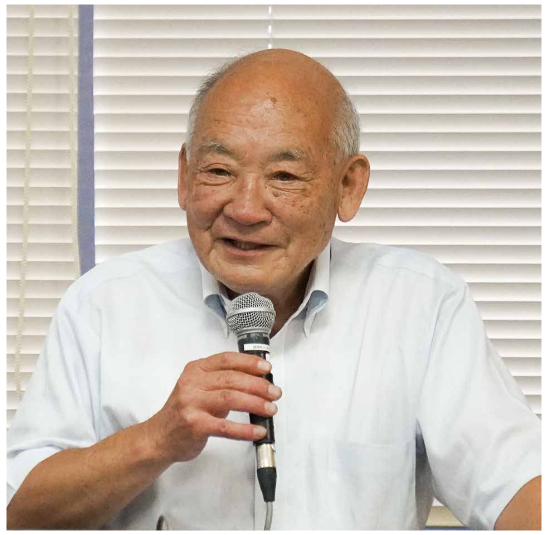
◀14ページに次回勉強会のご案内があります

2025年度 情勢勉強会

不透明・不確実の時代を克ち抜く 全社一丸の経営戦略

戦後の混乱期から現在に至るまで、中小企業の持続可能な発展を目指してきた同友会。
その歩みは、単なる経済活動にとどまらず、地域社会の基盤を支える
使命を帯びた運動として展開されてきました。
松井清充氏は、同友会の歴史と理念を振り返りながら、
これからの経営者に求められる視座を語りました。

報告▶ **倉本 明彦**（南支部）



松井清充氏

日　時	2025年8月22日㈮ 14:00～17:30
会　場	福岡県中小企業振興センタービル401A会議室
報告者	松井 清充 氏　中小企業家同友会全国協議会 参与

中小企業の最大の使命は「働く場をつくること」

「同友会は、潰れない企業づくりを目指してきました。政策提言と労使見解の確立を通じて、変化に対応できる企業を育てる運動を続けてきたのです。バブル崩壊後は、単なる変化対応では不十分だと気づき、意思決定権を持つ21世紀型企業づくりへと舵を切りました。」

その到達点が、地域に根差した企業の在り方です。松井氏は、東日本大震災の際に店を開けただけで感謝された経験を引き合いに出し、「中小企業は地域のインフラである」と語ります。

地域とは、社員とその家族が暮らす場所、会社が存在する場所、そして顧客がいる場所。この三位一体の関係性が、企業の社会的責任を浮き彫りにします。

「働く場をつくることこそが、中小企業の最大の使命です。人間は働くことで社会を形成してきました。働く場がなければ、人は人間としての尊厳を保てません。経営者の役割は、利益を追求することではなく、人間を育てる場を提供することにあります。」

地域の課題を経営課題に

過疎地や高齢化地域には、課題が山積しています。しかし、それは同時に無限の可能性でもあると松井氏は言います。

「地元を見直せば、仕事はいくらでもあります。ただし、儲かる分野を確保しなければ、持続性はありません。地域の課題をニーズに変え、人を活かす経営を実践することが重要です。」

企業が強くなれば、地域に雇用が生まれ、地域が活性化する。活性化した地域には顧客が集まり、企業もさらに成長する。この好循環を生み出すことが、経営者の戦略的視点に求められます。

「人口減少時代においては、社員の子どもの数を経営課題に含めるべきです。社員の家庭が豊かになれば、少子化にも歯止めがかかります。」

松井氏は、島根県の有福温泉での事例を紹介しました。地域の依頼を受けてレストランを開業し、わずか3軒だった旅館が2年で11軒にまで増加しました。地域に賑わいをもたらしたこの取り組みは、企業が地域の課題を解決する力を持っていることを示しています。

地域活性化を同友会全体の運動に

「新しい仕事を創出し、雇用を増やし、地域を元気にする活動は、すでに一部の企業で実現されています。しかし、それが同友会全体の運動として体系化されていないのが課題です。」

同友会に参加する企業は、経営指針を作り、企業を良くし、地域で仕事と雇用を創出する責任を担うべきだと松井氏は強調します。

「企業の問題を経営課題に

参加者の声（一部抜粋）

勉強会に参加して参考になったこと、自社の経営や活動に役立てようと思うことは？

- 時代の変化が速い中、経営の計画も1年待たずに短期間で見直す計画とすることにしました。高付加価値のソリューションが提供できるように特定のニッチ市場や難度高めの問題解決に特化する考えも生まれました。
- 今までの年よりさらに厳しい経営環境と感じ、経営指針に盛り込んで対応の必要を感じた。
- 自社での生産性が課題となっておりますがそれ以前に付加価値を上げる為に何をすべきかをまた検討する時間となりました。
- 待遇を良くしたら、それを続けられる経営。社員のための指針書。理念と人が続けば企業は継続できる。
- 質の良いものを少量で高く売る。生産性よりも付加価値を。これからの指針にしたい、と思います。
- 価格決定権をもち、利益を上げ、雇用し、人を育て、地域を活性化する。
- 問題を課題に変える。強みを定量化して見える化し全員で注力する。

挨拶する井上明副代表理事（地域づくり推進本部長）

座長を務めた中川甚広氏（政策金融部長）

変え、それを解決する委員会を設けることで、誰もが取り組める運動にしていく必要があります。」

そして、企業が目指すべきは「生産性の向上」ではなく「付加価値の向上」であると断言します。

「人を減らしてロボット化することで効率を上げても、地域は良くなりません。良いものを高く売ることで付加価値を高め、働く場と雇用を守る企業を目指すべきです。」

松井氏は、フランスの高級ワイン「ロマネ・コンティ」を例に挙げ、30人の企業が村の誇りとなっていることを紹介。

「日本でも、少数精鋭で高付加価値を生み出す企業は可能です。そのためには、人づくりが不可欠です。」

最後に、松井氏はこう締めくくりました。「地域の仕事と雇用を創出し、人が生き続けられる地域をつくる。同友会がその役割を担う時代に入ったのです。」

勉強会のまとめ

- 人間は働くことで社会を形成してきた。経営者の役割は人間を育てる場を提供すること。
- 企業が強くなり、地域に雇用が生まれ、地域が活性化する。顧客が集まり、企業もさらに成長する。この好循環を生み出す視点が求められる。
- 企業が目指すべきは「生産性の向上」ではなく「付加価値の向上」。そのためには、人づくりが不可欠。

グループ討論の発表

グループ討論の様子

- 人に合わせた仕事を任せてやり甲斐、存在意義を確立させる事の必要性を感じました。
- 世界情勢の学びになりました。広い視野で事業を見ていきたいです。

その他のご意見

- 3年連続で参加しています。情勢知識の習得が苦手なので、ありがたいです。来年も楽しみです。
- グループ討論で他会員さんとの感想を共有するだけで学びになったことと、経営者としての覚悟がまだまだ足りないことを強く感じました。
- グループ討論があってよかったです。一人では話を聞いていたら、半分も分からなかったと思います。

第208回 新会員フォローアップセミナー

9月27日(土)開催
参加した新会員▶15人

NEXT
11月27日 木
ご参加を
お待ちしております。

2025年度 第5回 理事会議事録

理事会議事録の詳細はe.doyuの「文書管理」にある「理事会議事録」にてご覧ください。

開催日時	2025年9月24日(水) 14時30分~17時36分	会　　場	久留米シティプラザ4階 中会議室
出 席 数	37名(出席率94.8%)	議　　長	楢原　憲一

1 入退会審査
入会19名、退会10名が承認され、9月承認会員数は2,377名となった。また、移籍申請2名を確認した。

2「全体構想」について
全体構想の各組織からの回答を見ながら意見交換を行った。各支部での見直しや課題は、他支部の意見も参考にしながら各支部で議論して決定し、PDCAを回すこと。全体的に大きく活動を変更するような点は、10月理事会以降、正副代表理事会議で提案し、今年度中に結論をまとめる方向であるということが確認された。

3 ハラスメントについて
①ハラスメント相談窓口は事務局長1名の体制とする。②窓口の案内文章の頻度･媒体は、議案書と、国のパワハラ撲滅月間に合わせて12月度の『月刊同友』に掲載する。③フォローアップセミナーで時間を取る。④「e.doyu文書管理」に案内文章を保存して利活用できるようにすることが承認された。

4 企業づくりより
引き続き経営指針成文化･実践の声かけ、企業変革支援プログラムの登録促進が呼びかけられた。

5 2025年度前半期活動総括の提出について
2025年度4月~9月の各組織の活動総括を提出が要請された。

6 同友会づくり推進本部より
福岡同友会ホームページの委員会紹介ページ見直しについて、委員会ページの確認と、修正が必要な場合は広報情報委員会に修正内容を上げてもらうように依頼された。また、今後は毎年方針を検討する際に定期的に見直す。なお、各委員会から変更依頼を出してもらい、保守契約の費用範囲内で行うことが承認された。

7 経営者フォーラム委員会より
各支部参加目標達成へむけて、支部長も実行委員のフォロー、カバーをすることを確認した。

8 県役員選考委員会より
役員選考副委員長の選任について継続協議となった。

9 会員企業の動き

■ 経営革新計画承認企業
2025年8月(県16件／うち同友会会員企業1件)
※累計で福岡県全体では10,101件、会員企業は延べ591件です。
㈲自然薯王国　崎田 正司 さん(南支部)
〈テーマ〉日本の健康的な伝統食(自然薯)を原材料とした「忍者食」の開発とインバウンド需要の獲得。

■ 表彰など
キッズデザイン協議会 第19回キッズデザイン賞 受賞
コンダクト㈱　和田 克之 さん(北九州支部)

■ 福岡市ソーシャルビジネススタートアップ成長支援事業に選定
~ふるさと納税で、社会課題の解決に取り組む起業家を支援~
㈱pono(ポノ)　牛島 智絵 さん (福友愛支部)

「よかとこビジネスプランコンテスト2025」特別賞　受賞
㈱pono(ポノ)　牛島 智絵 さん (福友愛支部)

詳しくはWEBでご覧ください▶

11 火 **かすや支部11月例会** 18:30～21:00
志免町商工会2階会議室
糟屋郡志免町志免中央1-14-10
同友会を知る会
～同友会の学びを活かして～
■ **今泉 ふみ 氏** カネシチ今泉醤油醸造有限会社 後継者（かすや支部）
■ **古髙 優子 氏** 合同会社ミコー漢方処ミコー薬局 代表社員（かすや支部）

13 木 **中央支部11月例会** 18:20～20:45
アクア博多
福岡市博多区中洲5-3-8
☎092-733-1310
WEB会議システム「Zoom」
（ZoomミーティングID等は別途連絡）
経営者として目覚めた瞬間（とき）
～久留米No1企業を目指して～
■ **山口 恵子 氏** 株式会社ファインドカラー・エクス 代表取締役（中央支部）

13 木 **ひびき支部11月例会** 18:30～21:00
コムシティ大会議室
北九州市八幡西区黒崎3-15-3-3階
☎093-641-9360
私たち、こんな仕事やってます!
これが私の仕事の強み!そして現在の課題とは
■ **柴田 麗子 氏** KOCHOURAN 代表者（ひびき支部）
■ **今川 春美 氏** かえるキッチン 代表者（ひびき支部）
■ **右田 和暉 氏** 司法書士法人やまなみグループ 代表社員（ひびき支部）
■ **加藤 秀隆 氏** CML.HD株式会社 代表取締役（ひびき支部）

経営労働委員会
15 土 **経営指針作成あすなろ塾** 9:15～17:45
福岡県中小企業振興センター202
福岡市博多区吉塚本町9-15-2階
☎092-686-1234

同友すばる委員会
15 土 **事業承継塾 第4講** 14:00～17:00
電気ビル本館地下2階 7号会議室
福岡市中央区渡辺通2-1-82
☎0120-222-084
事業承継時のトラブル
■ **森 勇馬 氏** 直方駅前法律事務所 代表者（のおがた支部）

共同求人委員会
17 月 **大学就職担当者との懇談会** 17:00～19:00
八重洲博多ビル ホールA
福岡市博多区博多駅東2-18-30
☎092-733-1310

18 火 **福博支部11月例会** 18:00～20:30
天神チクモクビル 大ホール
福岡市中央区天神3-10-27
☎092-715-3250
人を生かす経営と高収益は両立する!
共に育ちあい、高めあう会社ってどんな会社?
■ **岩崎 龍太郎 氏** ATUホールディングス株式会社 代表取締役（福博支部）

18 火 **博多支部11月例会** 18:30～20:50
博多アーバンスクエア 大ホール
福岡市博多区店屋町1-31-11F
☎092-262-5513
経営理念で売上は上がるか?
「理念がなくても売上は上がる」VS
「理念があるから売上が上がる」
■ **木本 修司 氏** 有限会社木本設備工業 代表取締役（博多支部）
■ **仲西 翔 氏** 株式会社Bビーイング 代表取締役（博多支部）

18 火 **糸島支部11月例会** 18:30～21:00
糸島市商工会大会議室
糸島市前原北1-1-1-2階
☎092-322-3535
経営指針は"絵に描いた餅"ではなかった
～理念を現場とつくり、成果につなげた経営指針の歩み～
■ **花田 理恵 氏** 株式会社サワダ 代表取締役社長（西支部）

18 火 **北九州支部11月例会** 18:30～21:00
KMMビル大会議室
小倉北区浅野2-14-1-4階
☎093-511-4101
WEB会議システム「Zoom」
（ZoomミーティングID等は別途連絡）
プレイングマネージャーからの脱却
君は弁護士をやりたいのか?
経営者をやりたいのか?
■ **林 直輝 氏** 輝翔法律事務所 所長（福博支部）

18 火 **玄海支部11月例会** 18:30～21:00
天神ビル11号会議室 ☎0120-323-920
福岡市中央区天神2-12-1
障がい者雇用の本音とリアル
障がいの種類や度合い、合理的配慮、職場での支援のポイントを学ぶ
■ **堂園 文 氏** 福岡市立障がい者就労支援センター 所長

18 火 **田川支部11月例会** 18:30～21:00
福岡県立大学 大セミナー室
田川市伊田4395☎0947-42-2118
みんなで地域づくりについて考えよう!(仮)
中小企業憲章・中小企業振興基本条例の意義を学ぶ(仮)
■ **兒島 聖司 氏** 弁護士法人鴻聖 鴻和法律事務所 代表社員（田川支部）
■ **青柳 孝哉 氏** 株式会社BOOK 代表取締役（田川支部）

18 火 **大牟田支部11月例会** 19:00～21:00
大牟田文化会館 ☎0944-55-3131
大牟田市不知火町2-10-2
二度目の挑戦
～共育を通して自社の見つめ直し～
■ **石崎 徹 氏** 株式会社石崎商店 取締役営業本部長（大牟田支部）
他1社予定未定

19 水 **東支部11月例会** 18:00～21:00
福岡県中小企業振興センター401
福岡市博多区吉塚本町9-15-4階
☎092-622-6230
次代へつなぐ事業承継、選ばれる企業づくり
■ **森 仁志 氏** 和新工業株式会社 代表取締役社長（東支部）

19 水 **西支部11月例会** 18:30～20:45
アクア博多 A会議室 ☎092-263-4770
福岡市博多区中洲5-3-8
社長の考えをどのように浸透させてますか?
■ **松尾 勲 氏** 株式会社平尾自動車工場 代表取締役（西支部）

20 木 **筑紫支部11月例会** 18:20～20:50
筑紫野市生涯学習センター
筑紫野市二日市南1-9-3
☎092-918-3535
未定（採用共育に関するテーマ）
■ **西田 朋之 氏** 株式会社Reクリエーション 代表取締役（有明支部）

20 木 **りょうちく支部11月例会** 18:30～20:25
るり色ふるさと館研修室2
うきは市吉井町983-1
☎0943-75-3343
会社が育てば、地域が活きる。
～本音を語れる支部活動が企業も地域も強くする～
■ **宮野 大樹 氏** 株式会社Daiju.tech 代表取締役（大分同友会・日田支部）

21 金 **有明支部11月例会** 18:15～21:00
柳川市民文化会館「水都やながわ」
柳川市上宮永町43-1
☎0944-73-7777
中小企業のための落語会
桂 伸衛門　真打独演会
■ **桂 伸衛門 氏**

企業連携推進委員会
21 金 **企業連携推進委員会FAST11月例会** 18:20～20:30
福岡同友会事務局全体会議室
福岡市博多区吉塚本町9-15-11F
☎092-686-1234
シンデレラ戦略実践セミナー
新商品のヒント
■ **深見 信吾 氏** 深見経営株式会社 代表取締役（東支部）
■ **鬼塚 達也 氏** 鬼塚法律事務所 代表者（福友愛支部）

25 火 **南支部11月例会** 18:30～20:50
アクア博多A会議室
福岡市博多区中洲5-3-8
☎092-263-4770
WEB会議システム「Zoom」
（ZoomミーティングID等は別途連絡）
代表と共に歩む右腕の道
組織を笑顔にするのが僕らの使命
■ **長嶋 英憲 氏** 株式会社スミリオン 部長（南支部）

25 火 **飯塚支部11月例会** 18:30-21:00
パドドゥ・ル・コトブキ
飯塚市片島1-7-62
☎0948-22-5138
企業変革支援プログラムをやってみよう（仮）
自社の現在の立ち位置は?（仮）
■ **重松 和孝 氏** 有限会社コンサルティングオフィス 代表取締役社長（飯塚支部）

27 木 **福友支部設立40周年記念式典** 17:30～21:00
グランドハイアット福岡3F
ザ・グランドボールルーム
福岡市博多区住吉1-2-82
☎092-282-1234
■ **鋤柄 修 氏** 株式会社エステム 代表取締役（中小企業家同友会全国協議会）

27 木 **のおがた支部11月例会** 18:30～21:00
ユメニティのおがた
直方市山部364-4
☎0949-85-1007
会社を変えたいなら、この話を聞け!
同友会が仕掛ける「本気の経営改革」
■ **貞兼 朋記 氏** 株式会社ルックルック 代表取締役（南支部）

フォローアップ部会
27 木 **新会員フォローアップセミナー** 18:00～21:00
福岡県中小企業振興センター303
福岡市博多区吉塚本町9-15-3階
☎092-686-1234

28 金 **久留米支部11月例会** 18:30～20:30
ハイネスホテル久留米
久留米市天神町1-6
☎0942-42-7211
事業承継総論
■ **傳田 潤一 氏** 福岡県事業承継・引継ぎ支援センター サブマネージャー

お申込み、お問い合わせはe.doyuもしくは、同友事務局までお願いします。お知り合いの方を誘って、是非ご参加ください。

企業変革支援プログラム Ver.2 勉強会

社員と見つける新たな気づきで企業変革へ

12月1日 月 18:00～21:00
福岡県中小企業振興センター301号

報告者
株式会社ルックルック代表取締役
貞兼 朋記 氏
福岡県中小企業家同友会代表理事

本勉強会では、実践者の報告を通し、企業変革支援PGの使い方を社員と一緒に学ぶことで、社内の強みと弱みを見つめなおし、意識のギャップを埋めて、人を生かす経営の総合実践企業を増やすことを目的とします。

勉強会で体験できること

1 **登録から活用まで**
プログラムの登録方法から日常的な活用法まで、ステップバイステップで学習します

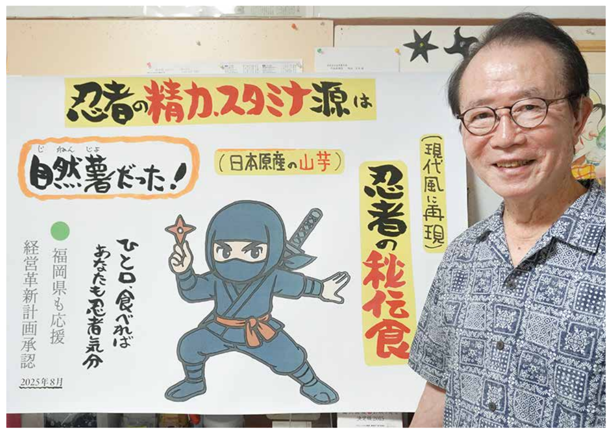
2 **実例で学ぶ**
実際の企業事例を通じて、プログラムの効果と活用のポイントを理解します

3 **その場で体験**
自己分析シートの入力を実際に体験し、すぐに活用を開始できます

9ページに関連記事を掲載しています▶

月刊 同友
11月号
2025
vol.712

会員トピックス



福岡県「経営革新計画」の承認を受けました！

文・写真：㈲自然薯王国　崎田 正司（南支部）

2025年８月29日に福岡県の経営革新計画の承認を受けました。計画内容は「日本の健康的な伝統食（自然薯）を原材料とした『忍者食』の開発とインバウンド需要の獲得」です。

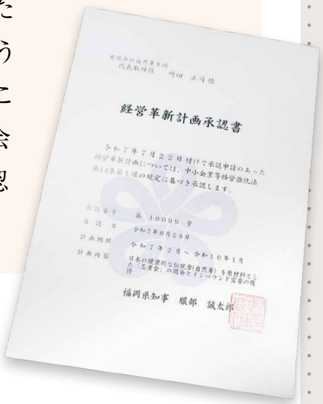
商品開発エピソード

私たちは30年以上にわたって自然薯を扱っており、その滋養強壮効果を実感していました。自然薯を使ってもっと強く健康になれる商品が作れないかと考えていたところ、強靭な体力を持つ忍者が思い浮かびました。敵の城に忍び込み、高いストレスの中で一日何十キロも走る忍者が、その体力を維持するために何を食べていたのか。その答えを探る中で、三重大学に忍者学という学問があり、昔の忍者が実際に食べていたものについての研究が行われていることを知りました。この研究で明らかになった食事内容をヒントに、「食べたら忍者気分になるような忍者食」としてこの商品を開発しました。忍者という言葉は、小さな子供からお年寄りまで一瞬で惹きつけ、ワクワクさせる力があるため、商品名として採用しました。

インバウンド需要も視野に

今後はインバウンド需要も視野に入れています。海外では忍者の人気が非常に高く、先進国では８割の人が忍者を知っており、そのうち6割は忍者が今でも実在すると信じているという調査結果もあるほどです。福岡を訪れる外国人観光客がワクワクするような新しいお土産になることを目指しています。

※経営革新計画とは、中小企業が新しい事業活動を通じて経営を向上させるための計画を立て、それを国や都道府県に承認してもらう制度です。承認されると、補助金や低利融資といった支援措置を受けられるようになります。福岡県ではこれまでに10,101件、うち会員企業は延べ591件承認を受けています。



2025年11月1日発行（毎月1回・1日発行）
福岡同友会
https://www.fukuoka.doyu.jp/

アンケートにご協力ください　回答締切 11月30日(日)
月刊同友では、皆様からのご意見・ご要望を募集しています。
よろしければQRコードからアンケートにお答えください。（所要時間 4分）

一般社団法人　福岡県中小企業家同友会
〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町9番15号
福岡県中小企業振興センタービル11階
TEL:092-686-1234　FAX:092-686-1230

北九州地区センター
〒802-0001 北九州市小倉北区浅野1-2-39
クルーズ浅野ビル808号
TEL:093-551-3111　FAX:093-551-3344

県南地区センター
〒830-0038 久留米市西町1367-1
祥栄ビル2階
TEL:0942-33-3355　FAX:0942-33-3366